

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 福重教室			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	74	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 12日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員研修を定期的かつ様々な立場の者に行うことが出来ている	入社後一定期間経った職員だけでなく所長に対しても上席の方々が研修の機会を設けてくださっている。	勤続年数の長期化が考えられる為、ベテランの職員に対しての研修や交流の機会を設け、支援の質の向上を目指していく。
2	保護者様との定期的な面談の中で、生活上の悩みに対する相談を受け、様々な方法で解決を図ったり助言、支援を行ったりしている。	面談の機会だけでなく、送迎時やLINE等の連絡の中で受けた相談に関して周知を行い、教室やエリア内での協議をした上で支援などに反映させていっている。	現実的に難しいが、保護者同士での各ご家庭の悩みや困り等交流の場を設けたり、それに対してのアドバイスが出来るような機会を求めたりされる保護者様もいらっしゃる為それが実現できればよりご家庭のニーズに沿った支援が出来るのではないかと。
3	日々の支援方針や計画作成、各月のイベント等運営上の様々な事項を各教室でミーティングにて行う時間を必ず設けている。	ミーティングをただの報告会にするのではなく、どういった支援がその生徒にとってより有効なのかを全職員で協議、支援、効果測定を行い成長につなげられるよう話し合っている。	各教室だけでなく、併用教室や土祝開所教室の職員間での情報共有や支援方法を検討できる機会があれば更に的確な支援の提供が出来るのではないかと。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学前に利用していた保育所や幼稚園等との連携をとってスムーズな環境の移行ができていない可能性がある。	時間確保の難しさや連絡調整の手段が少ない。	就学前の担当者会議等の機会にて生徒の教育に携わった各事業所の可能な範囲での参加や、保護者様に相談をさせていただいた上で利用されていた園や児発との情報共有をしていけばよりその生徒さんに対する理解を深めたうえで移行ができるのではないかと。
2	ご家庭に対しての家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)が行うことが出来ていない。	時間確保の難しさやトレーニングのカリキュラムが現状ない。	現状ペアレントトレーニングの企画や開催は難しいかもしれないが、面談の機会が半年に一度と頻度は少ない為、少し短いスパンで保護者様からの要望や悩み等を聞き、支援に反映できるような機会を設けることも重要だと考える。
3	土曜日に企画するイベント(外出イベント)の内容が偏りつつある。	職員の休憩時間の確保やスケジュール、生徒の特性等の問題でイベント先が限られている。	施設見学だけでなく、地域の交流会(クラブ活動等)と触れ合う機会を設ける等地域に開かれたイベントを企画することでイベント内容の幅を広げられるのではないかと。